

避難所には 常にラップオンを配備

命を守るための避難行動の啓発も

越谷市では、市内92箇所(収容可能人数約35,000人)の避難所を指定し、防災備蓄品については、食料、水、トイレのほか、体温計やパーテーション等、避難所で安全に過ごすための備蓄を進めています。現在は地震災害のみならず、頻発・激甚化する風水害への対策ほか、避難所での感染症対策が重要になってきています。

風水害については、利根川が氾濫した場合、越谷市は市全域が浸水する状況となり、長いところでは2週間水が引かない地域もあると想定されるため、迅速かつ適切に避難所を開設できるかが重要になります。しかしながら、氾濫してから越谷市に氾濫流が到達するまで、12時間から24時間かかるほか、越谷市には、家屋が流されるような氾濫流は流れてこないとの想定もでています。さらには、避難所での感染症対策として、ソーシャルディスタンスを考慮した場合、収容可能人数が想定より大幅に少なくなるため、自宅の浸水状況に応じた命を守るための避難方法を皆さんがそれぞれ検討していただく必要があります。

越谷市では、浸水リスクの確認方法や避難行動について記載したチラシを配布するほか、市ホームページでも風水害への対策について周知啓発を進めています。

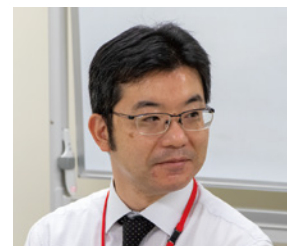
小中学校・地区センターに各2台配置

東日本大震災や熊本地震の教訓から、多くの人が安心して使えるトイレの必要性が高まりました。被災地派遣として、西日本豪雨の被災地である岡山県真備町の現場を見て、清潔なトイレを確保することの重要性を痛感しました。

災害時のトイレは「室内で使える・臭わない・衛生的に優れている」ものが必要であり、高齢者や女性、車椅子等の配慮が必要な方が、避難所で安心してトイレを使用できるようにと考えてラップオンの導入を進めています。設置する場所については、避難所の多目的トイレ等の屋内に設置して、外に出ることなく使用できるように配慮しています。

令和2年度中に、市内の小中学校・地区センターの58施設に各2台を設置し、避難所に常にラップオンが備えてある状態を整えて行きたいと考えています。

Interview



市民協働部 危機管理課
副課長
防災士
流 孝次 様



市民協働部 危機管理課
主事
防災士
池田 和樹 様